

著作権上の都合により非公開

学校推薦型選抜・社会人選抜

小論文 解答例

問一 未知の病気を診断するためには、「とにかく想像すること」が大切である。想像力を広げるには自分の経験だけではなく他の医師の症例経験を知るのが重要である。その際、他人の経験を自分に置き換えリアリティをもって考えることが重要だ。また、未知で難しい問題を解くときに、具体的な過去の事例から抽象的理解を得て、応用力を身につけられる。真の臨床医であれば、未経験・未知で、不明で難しい事柄にも挑むべきである。（一九六字）

問二 私は、医療の場で「自分の経験」を積極的に増やしていくことがまず必要だと考える。筆者は、未経験・未知の事柄、不明で難しい事柄にも挑むことが真の専門家の姿勢だと述べている。医療の場で恐れずに挑戦することで、未知の領域が減るし、「自分の経験」したことは新しい領域に挑戦する際に生かしていける。そして、そのとき自分の行動を必ず振り返り、反省することが大切だ。医療の場で失敗をしてはならないが、適切な対応が取れないことはあるかもしれない。自分の行動が本当に適切だったか、より良い方法はなかったかなどを、客観的にチェックしていくことが必要だ。医療は科学であるから、なぜ失敗したのかという原因を自分自身で探り、また他人から指摘をしてもらうことで、どうすればそのような失敗やミスを繰り返さないかについて具体的に考えられる。「自分の経験」の場を増やすことで、医療の場でより適切な対応ができる。

「他人の経験」について、筆者は他の医師の経験した症例報告を読みながら、ひたすら想像していく姿勢が大切だと述べている。症例について「患者さんはどんな人だったのか」などを想像することは確かに重要だ。同時に、自分以外の医療従事者の経験、つまり「他人の経験」について直接聞いたり、資料で読んだりしながら、自分自身の対応として生かしていく姿勢が、経験が浅い場合は大切だと考える。分野は違うが、有名な画家が最初は他の画家の絵をひたすら模写していたと、本で読んだことがある。真似をしながら医療の技術を身につけることは可能だろう。ただ、その際にただ行動を真似するだけでは意味がない。その医療従事者がどのような考えで患者に対応したのか、どのように工夫したのか、といった点まで考えながら自分のものにしていくべきだ。そうすれば「他人の経験」を、本当に自分の技術として生かすことができ、さらに新しい挑戦の場を広げることができると思う。（七九三字）